

第554回: マオタイが世界3大蒸留酒だって?

こないだ、茅台酒(以下マオタイ)に関するレポートの中で「マオタイはウイスキー、ブランデーと並ぶ世界3大蒸留酒」とあるのを発見して、椅子から転げ落ちそうになった。

「誰がそんなことを言っているの?」と関係者に尋ねたら、中国最大の検索エンジン百度(Baidu)に載っているのだそうだ。「最近の大学生はレポートの参考文献に、ウィキペディアなどのフリー百科事典を平気で引いて来る」と友人の教授が嘆いていたが、そのとおりである。

ボクも本コラムを書くときに、しばしばウィキペディアや Baidu 等の力を借りているが、あくまで参考にする程度であり、もしウィキペディアの記述を引用するのであれば、必ずウラをとる。

なぜかと云えば、①匿名の不特定多数が編集する情報があてにならないのは当然のことであり、②学術論文と違って査読者や編集者のチェックを受けておらず、③随時編集可能なので、筆者が参考にした時と、読者が見た時に内容が変わってしまっている可能性がある等々、いろいろ問題が多いからだ。

「素人がこんなものを引用して・・・」と、ぶつぶつ呟きながら Baidu でマオタイを検索したら、こう載っている。「茅台酒是中国的传统特産酒。与蘇格蘭威士忌、法国科涅克白蘭地齊名的世界三大蒸留名酒之一・・・以下略(マオタイは中国伝統の特産酒であり、スコッチ・ウイスキー、フランス・コニャック・ブランデーと並び、世界3大蒸留名酒の一つ)」

そもそも、この冒頭部分がおかしい。マオタイをスコッチやコニャックと比べること自体が変ではないか? 「(芋焼酎の)黒霧島は、ウォッカ、コニャックと並ぶ3大蒸留酒です」と云うようなものだ。

ウイスキーを材料で区分すると、ブレンディッド・ウイスキー、モルト・ウイスキー、グレーン・ウイスキー等に分けられる。一方産地で区分すると、スコッチ、ジャパニーズ、アイリッシュ等に分類され、スコッチのなかにマッカラン、ボウモア、グレンフィディックなどの個別銘柄が並ぶ。

マオタイは高粱など穀物を原料とする蒸留酒で、中国では白酒(以下パイチュー)と呼ばれるアルコール度数が 38 度~53 度程度のスピリッツ。中国で作られている数百銘柄のパイチューのなか、マオタイは普及品ですら一本 3000 元もする超高級品であり、「五糧液」と並び最も評判の高い高級ブランドである。

中国のパイチューは、その独特の香りによって7分類され、馥郁たる酒の香りに蒸留所の穴倉の匂いが加味された「醬香型(代表はマオタイ)」、酸味のある甘い香りが特徴の「濃香型(代表は五糧液)」、清々しい香りと淡麗な味わいの「清香型(代表は汾酒)」などに分類される。

マオタイはパイチューのなかの、「醬香型」の代表銘柄である。だからマオタイを海外の名酒と比較するのであれば、相手はスコッチやコニャックのような大分類ではなく、バランタイン(ウイスキー)、ヘネシー(ブランデー)、タンカレー(ジン)、ストリチナヤ(ウォッカ)、バカルディ(ラム)、クエルボ(テキーラ)、國華(泡盛)などの個別銘柄でないと、バランスがとれないのではないだろうか。酒の話になると、つい口角泡を飛ばすような勢いになってしまっすみません。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

中国に長く滞在し、パイチューは、行く先々でいろんなブランドを飲んだが、正直言って積極的に飲みたいと思うパイチューは、マオタイ(貴州茅台酒 600519/上海)と、五糧液(宜賓五糧液 000858/深セン)くらいで、北京や重慶などの中華料理屋で庶民が乾杯の応酬を繰り返している安物のパイチューは、酒好きのボクでも裸足で逃げたくなるようなしろものだ。

北京には二鍋頭(アールゴト)と呼ぶ悪魔の蒸留酒がある。労働者や農民が愛飲する庶民のパイチュー「紅星二鍋頭酒」は小瓶(1合くらい)が邦貨換算 30 円程度で買える。でも、これは北京の若者たちが飲み会の罰ゲームで使っているほどの強敵だ。アルコール度数の 56 度は問題ないが、問題は味と香りだ。餓えた雑巾の匂いに、赤錆を加えたような臭気じゃなくて、フレーバーはまさに悪魔のスピリッツ。

マオタイは確かにうまい。でも世界 3 大蒸留酒だなんて喧伝するのは、中国の Baidu くらいのもんだ。まず知る人が少ない。マオタイでも五糧液でも、日本で飲んでいる人を見たことがありますか。中国人が経営する中華料理屋には中国人のお客さんもやって来るから、1、2 種類のパイチューくらいは置いてあるだろうが、中国人客の約半分は食事中に酒を飲まないし、飲んでもビールやワイン、紹興酒が中心だ。

もし日本のサラリーマンがマオタイを飲む機会があるとすれば、中国企業と親睦を深めるための儀式として、高級ホテルや維新號など中華料理の老舗でマオタイを一瓶開けて、田中角栄首相と周恩来総理が盃を交わした日中国交回復の往時を偲びながら、乾杯する程度だろう。

マオタイや五糧液が広く知られていない証拠に、東京でもニューヨークでも、「マオタイを一本買って来い」と言われた人は販売店を探すのに難渋するに決まっている。東京でボクが知っているマオタイの販売店は、デパートを除けば、最近酒類の販売に力を入れているビックカメラとヨドバシカメラくらい。しかもマオタイといっても、売り場にはあるのは 1-2 種類の普及品のみ。一方東京で、スコッチやジン、ウォッカを飲みたければ、酒屋、デパート、コンビニ等々、入手ルートはいくらでもある。

世界の 3 大蒸留酒なんて云いながら、銀座のクラブでも、オーセンティックなバーでも、マオタイが飲める所ってありますか？銀座のクラブでシャンパンやワインを頼めば、「ドンペリ」でも「オーパスワン」でも即座に、何本でも出てくるが、マオタイを頼む客はいないし、クラブでも用意してないだろう。

銀座のバーにマオタイがなくても一向に構わないが、ウイスキー、ジン、ウォッカ、ブランデーの、どれか一つでも切らしてしまったら、バーは即閉店だ。カクテルがつかれなくなるからね。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2019 年(令和元年)11月15日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱 UFJ 信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本^の常識は中国^の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金) に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して 最大 0.8800% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.75% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。